工事検査ワンポイントアドバイス
「遠隔臨場検査について」

工事検査通信　No.99
発行：　R7年10月27日
出納局　工事検査課



最近、遠隔臨場検査って、多くなっていますよね？



遠隔臨場検査は、感染症防止対策や工事検査の効率化の観点で、令和2年度から開始しました。2年度は、4件と少なかったのですが、業界的なＤＸ推進の流れのなか、3年度137件、4年度187件、5年度315件、6年度498件と年々増えています。（ちなみに7年度は9月までで161件）
「書類検査のみ」「現場検査のみ」「書類・現場両方」の３パターンが有り、工事内容や現場条件を考慮し、受注者、発注者と調整してパターンを決めています。



今度、遠隔臨場検査をするのですが、具体的にどのように実施しているのですか？



遠隔臨場検査の主な進め方ですが、まず事前準備として、受注者・発注者どちらかがZoomなどのWeb会議システム(無料)の予約を行い、検査前にリモート会議へアクセスし、画面上でやりとりできるようにしてもらいます。
検査員は、発注者と同じ会場で出来形管理・品質管理・写真管理などの書類について、会社にいる受注者とやりとりしながら「書類検査」を行います。併せて、情報共有システム(ASP)を活用していると、打合せ記録簿や写真を紙に出力せずに電子データにより画面で確認できるので、ペーパーレスにもなります。



「書類検査」は、比較的イメージしやすいですね。
「現場検査」はどうですか？



「現場検査」も画面上で、検測状況を確認します。
タブレットやスマートフォンで撮影し、その映像で測定値を確認します。
実際に現場のリモート検査を行った検査員の話では、現地に臨場して検査するのと大きな違いはなく、検測も問題なく行えるということでした。



通常よく使っているもので出来そうですが、具体的に必要になる設備は？



Web会議システムがインストールされた**パソコン**（カメラ内蔵or外付カメラが必要）、または**タブレット**や**スマートフォン**。併せて**会社の通信回線**（光回線、ポケットWi-Fi、スマホのテザリングなど）が整っていれば対応可能です。
遠隔臨場専用のカメラ通信機器類があるとより便利ですが、タブレットやスマートフォンでも充分「現場検査」は可能です。



課題もありそうですが・・・？



課題というか一番の問題は、工事現場の通信状況です。当然ながら機器がつながらなければ、遠隔による「現場検査」はできません。
ちなみに今度検査する場所は、通信状況がいいのですか？



通信状況を確認して、できるようなら「現場検査」も勧めてみます。
渋井検査員は何か意見ありますか？

遠隔の「現場検査」は、一度やってみるといいですよ。
先日ICTを活用した築堤工事の検査をしましたが、GNSSローバーを用いて、１断面の標高較差を確認するのですが、画面上で計測値を簡単に確認することができました。現場までの移動時間も短縮できますしね。
このような工事は、遠隔臨場検査に適していると思います。他にも仮設撤去のみの工事など、検測が伴わないようなものもいいですね。
今後は、遠隔臨場検査が増えてくると思います。



そうですね。「現場検査」も活用してほしいですね。
でも遠隔臨場検査は、我々検査員だけで行えるものではないので、受注者発注者にも建設分野のＤＸ推進の一つとして積極的に取り組んでいただきたいですね。





わかりました。ありがとうございました。

※参考資料　資料１：遠隔臨場検査（リモート検査）の推進（R7.6.10）
資料２：遠隔臨場検査（リモート検査）の事例紹介

＊＊

●本日のポイント

・「遠隔臨場検査」を活用し、円滑で効率的な工事検査を行う。

【登場人物の設定】　〇福島県 出納局 工事検査課



唐井(ｶﾗｲ)検査員



若井(ﾜｶｲ)検査員



渋井(ｼﾌﾞｲ)検査員